

A large, intricate network graphic composed of white and light blue dots connected by thin white lines, forming a complex web-like structure that fills the background. The background is a solid light blue color.

medU-net企画検討WG
2023年度メンバー募集

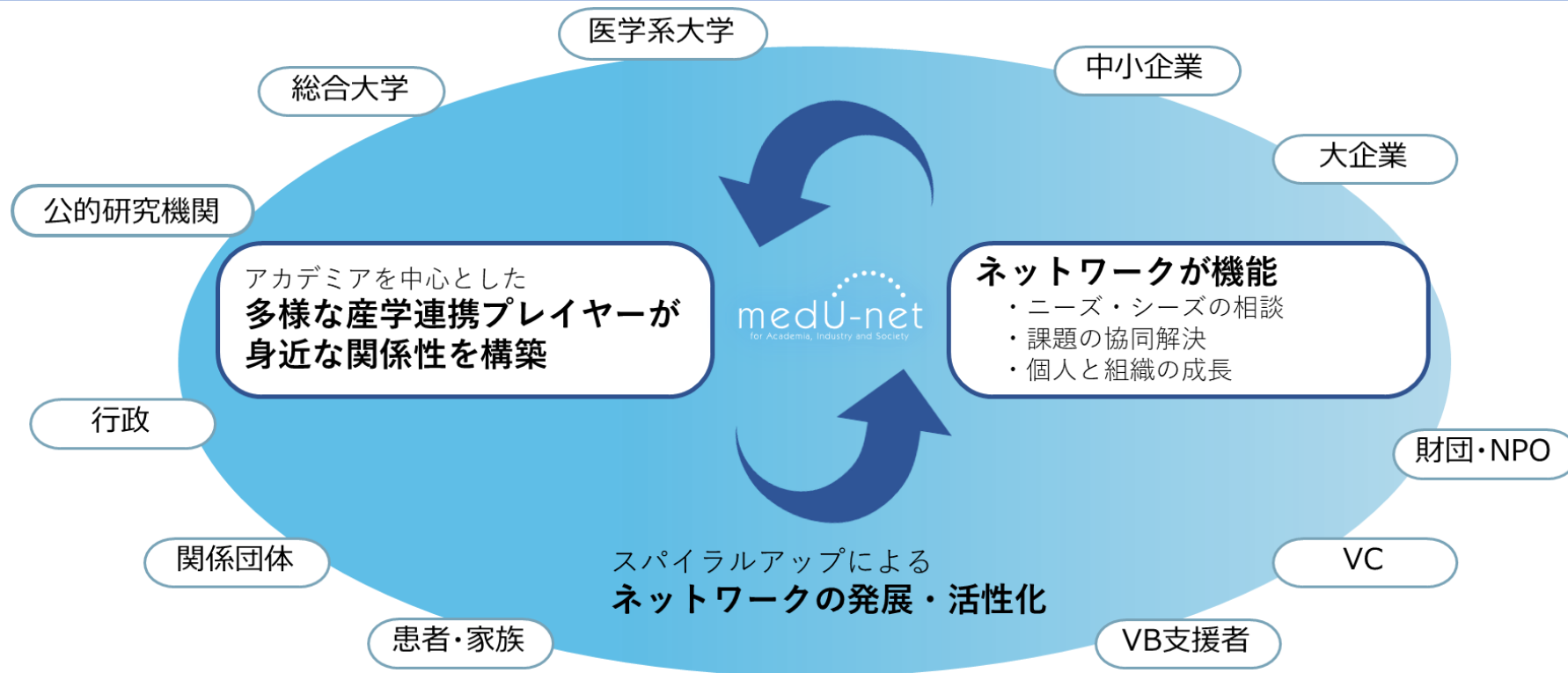
medU-net
for Academia, Industry and Society

2023年度 メンバー募集

WGで目指すビジョン 5-10年後に達成していきたい未来

ビジョン

「身近な関係性の構築」と「ネットワーク機能」のスパイラルアップによるネットワークの発展・活性化



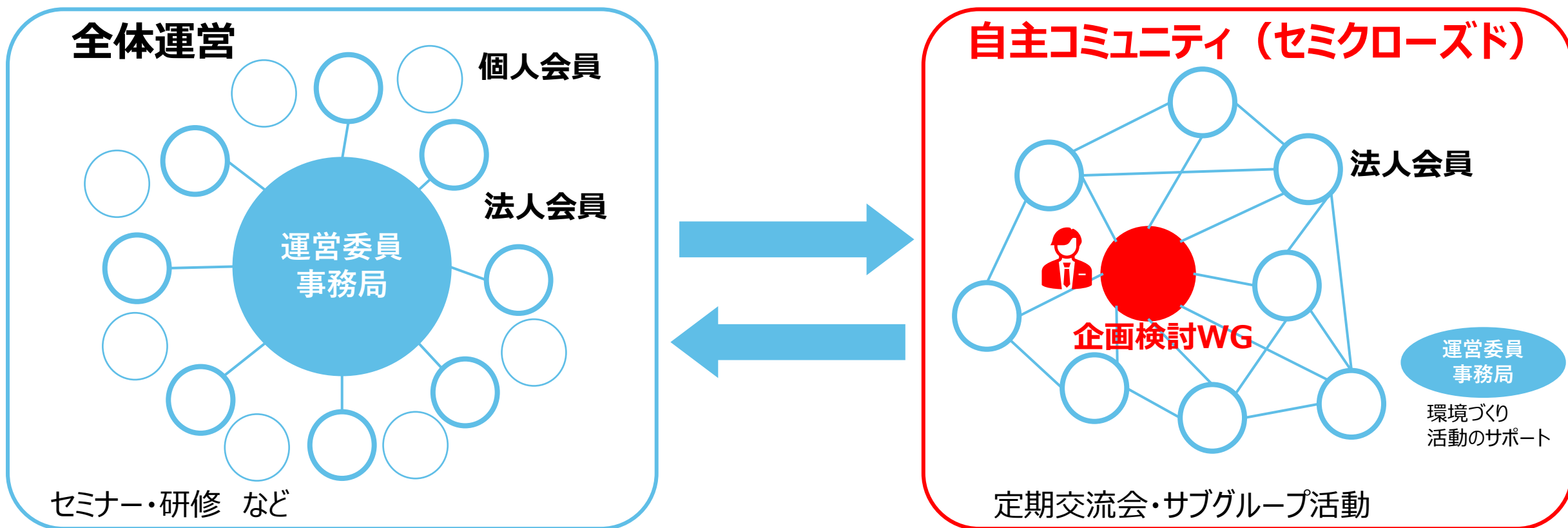
ミッション

medU-netのミッション

本会は、医学系大学の産学連携協力体制の構築を通じて、医学研究の発展と大学の社会貢献を支える産学連携活動のレベルアップと活性化に寄与し、延いては医療の発展に資することを目的とします。

WG取組概要

つながりやすい場「自主コミュニティ」の形成（企画検討WGが中心に運営）



自主コミュニティ活動（予定）

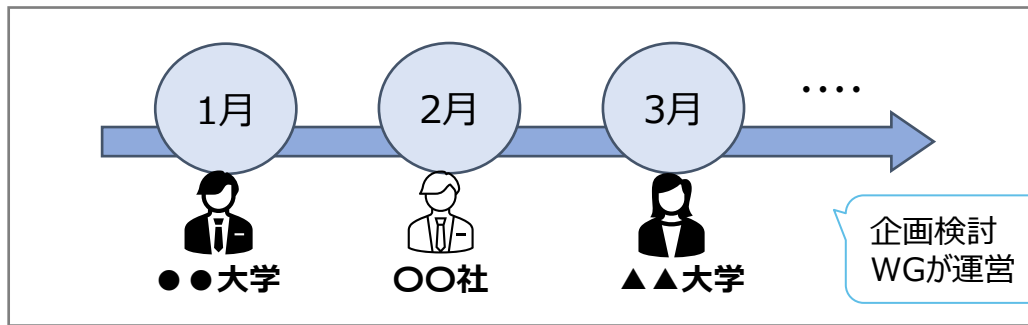
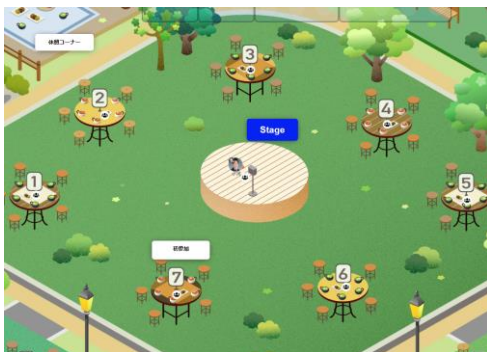
自主コミュニティ活動として、以下2つを、企画検討WG中心による企画・運営で活性化。
特に、産・学など多様なメンバーが参加する強みを生かしつつ、フランクにつながりやすい場とする。

medU-net情報交換リレー（定期交流会）

ゲストスピーカー1人が短時間（10分程度）で話題提供し、自由に情報交換するリレー形式交流会を定期開催

結論を得ないトピック、サブグループ活動へつなげる提案トピックなど自由に設定可。

ランチタイム 月1～2回想定。
oViceを活用予定。

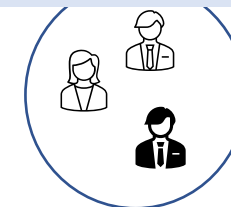


サブグループ活動

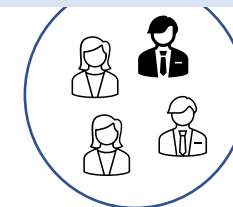
少人数（3名程度～）でのサブグループを、自発的に立ち上げできる仕組み

アウトプットを目指す活動、セミナー企画の活動、特定トピックの情報交換・勉強をメインとする活動、交流メインとする活動など、出口の有無も含めて多様な活動を許容し、自主的な活動を促進。

○○イベント企画



○○情報交換



○○勉強会



○○調査研究



企画検討WGが企画の立案・サポート

セミナー・CSW等 全体企画

企画検討WGの役割等

medU-net 自主コミュニティ

【運営】企画検討WG

コミュニティオーガナイザー

medU-net公認



【参加】medU-net 法人会員等



↓ 情報発信

medU-net全体

【役割】

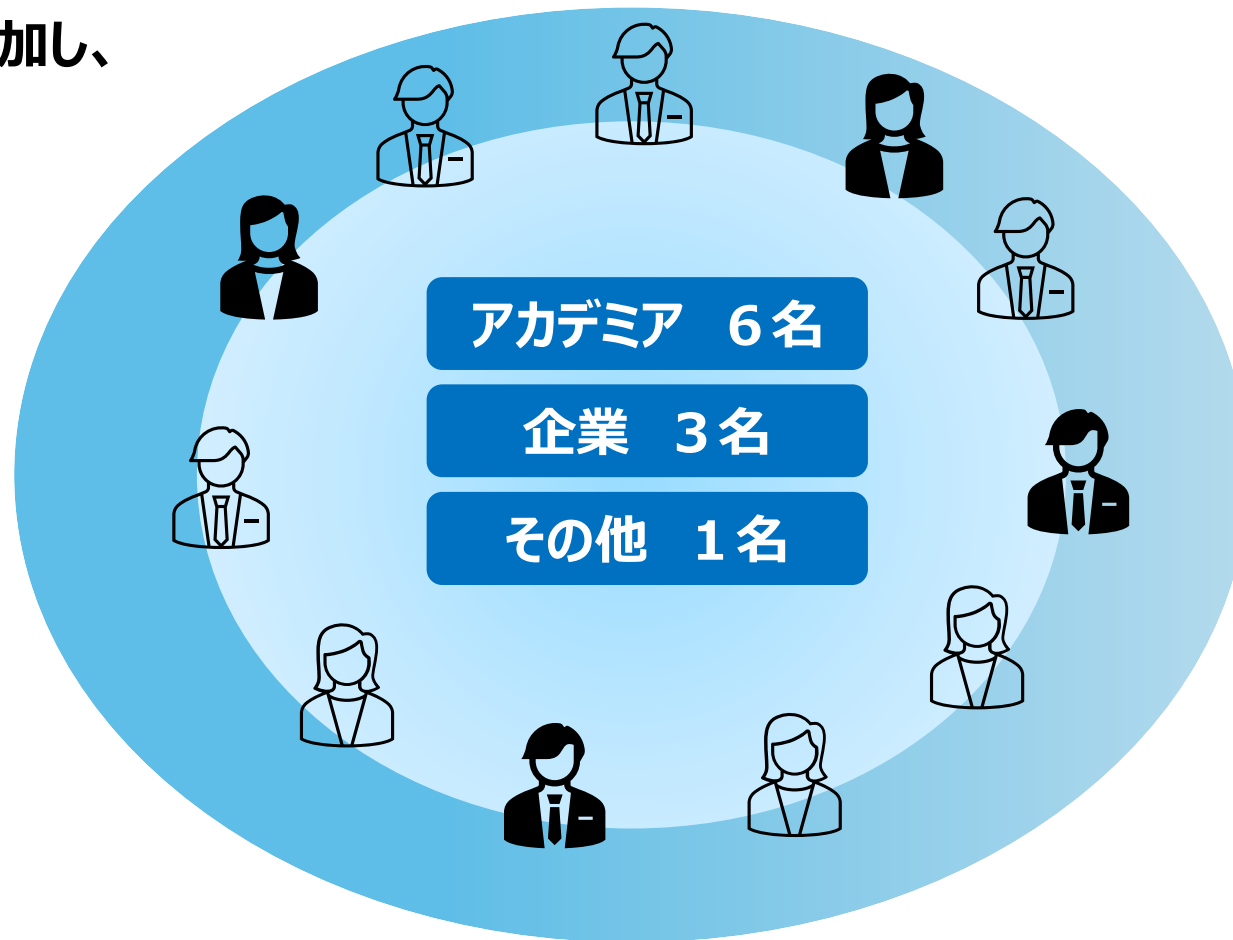
- ・定期交流会（medU-net情報交換リレー）の運営・参加（ランチタイムに隔週1時間予定）
- ・自主的な企画の立案・サポート（サブグループ活動のコーディネートを随時）
- ・新規参加の促進・情報発信
- ・その他（自発的な企画も歓迎、medU-netでのアンケート調査等も実施可）

【対象者】

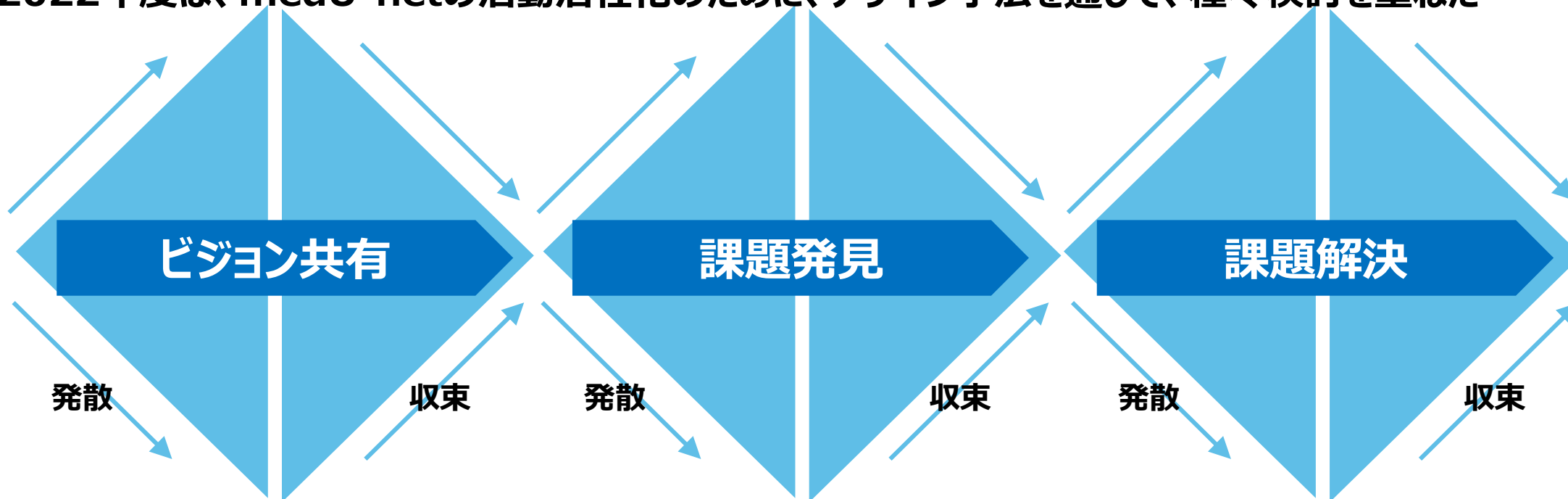
- ・産学連携実務を担当するmedU-net会員（法人会員、個人会員のいずれも可）
- ・WGのビジョンに共感し、ポジティブなマインドで活動できる方

2022年度 活動報告

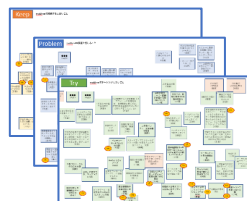
2022年度は、
産学から10名参加し、
WG活動を推進



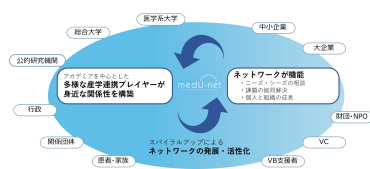
2022年度は、medU-netの活動活性化のために、デザイン手法を通じて、種々検討を重ねた



KPT
強み・弱み



ビジョン



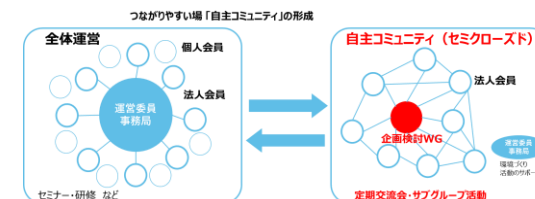
ペルソナ
インタビュー



問い

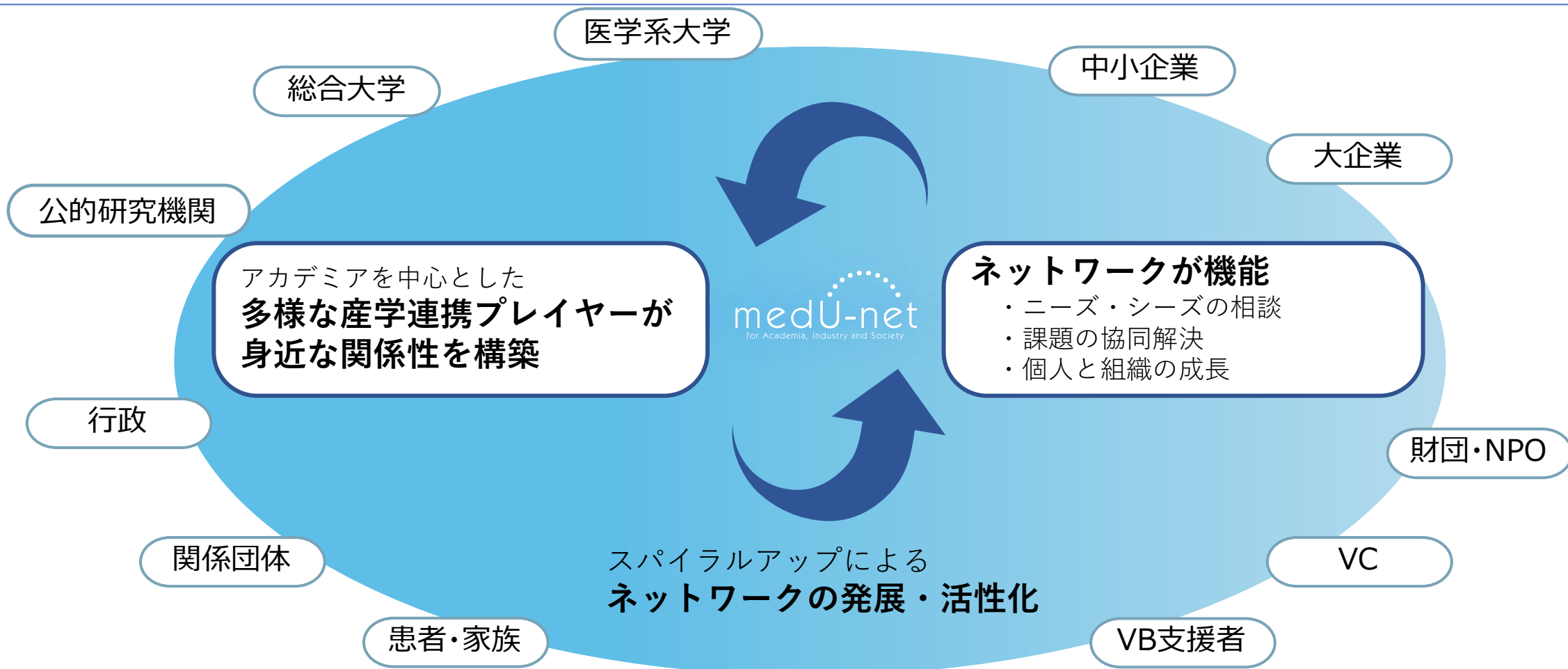
どうすれば私たちは、経験豊かな産学連携実務者の「自己有用感」と「居心地の良さ」と「刺激」を得られる場が欲しいという課題を解決できるか？

ソリューション



ビジョン

「身近な関係性の構築」と「ネットワーク機能」のスパイラルアップによる
ネットワークの発展・活性化



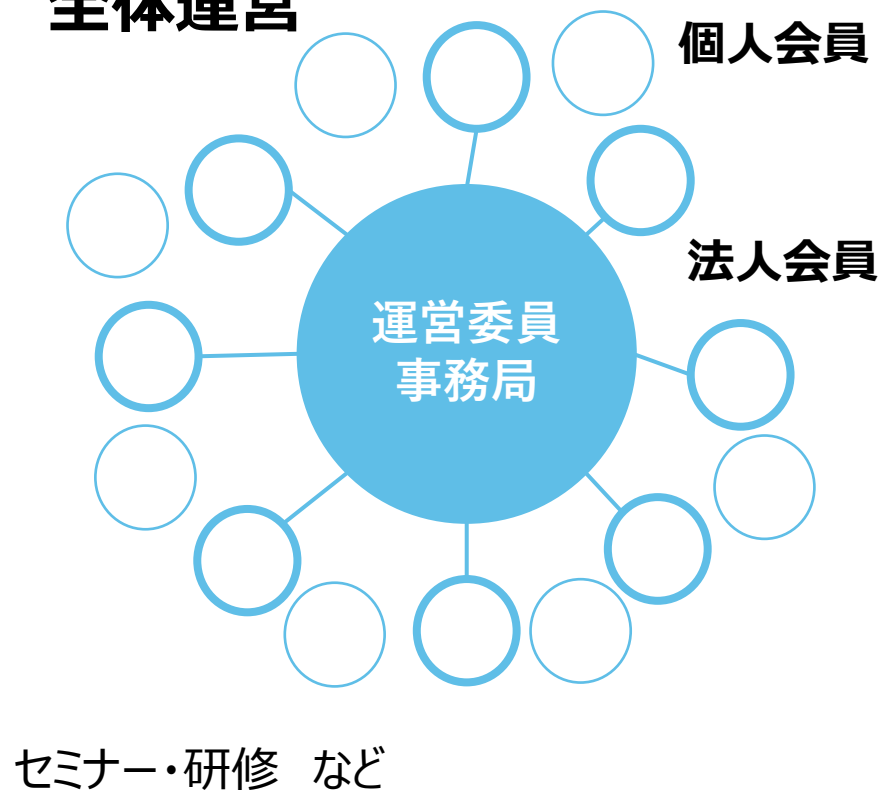
問い

どうすれば私たちは、経験豊かな産学連携実務者の「自己有用感」と「居心地の良さ」と「刺激」を得られる場が欲しいという課題を解決できるか？

ソリューション

つながりやすい場「自主コミュニティ」の形成

全体運営



自主コミュニティ（セミクローズド）



medU-net情報交換リレー

下記トピックで、企画検討WG+ゲスト参加で試行

- 1/5 石埜運営委員長を囲んだ意見交換
- 1/10 契約関係で困ったこと
- 2/7 共同研究の「知」への価値づけ導入
- 2/21 研究者との連携調整・交渉における留意点
- 3/7 連携の現場から「考える」（産からの話題提供）



企業と大学と一緒に話せる場というのは個性になり得ると思う。

話題提供とそれについて語り合うのに、小一時間というのはちょうどよい時間だと感じました



顔見知り同士なので参加しやすい。少しずつ広がっていくことで、新規参加者も話しやすい形になると思う。

ざっくばらんに意見交換できたことはとてもよかった。どこかでアウトプットの形にしていくと良いと思った。

サブグループ活動 候補トピック例

- ・Rare Disease Day
- ・「知」の価値づけ
- ・学内研究者とのコミュニケーション
- ・産と学のギャップ
- ・新株予約権
- ・医療情報の利活用
- ・展示会出展情報交換
- ・商工会・自治体等の医工連携等との連携
- ・バイオ人材育成（JBAバイオリーダーズ研修）

サブグループ活動 (RDD medU-netフォーラム企画)



RDD medU-netフォーラム

患者・家族と連携した希少・難治疾患へのアプローチ

日時 2023年3月19日(日) 13:00-15:00

方式 ZOOMによるオンライン開催

世界希少・難治性疾患の日 (RDD) に合わせて、medU-netでは、「患者・家族と連携した希少・難治疾患へのアプローチ」をテーマに、RDD medU-netフォーラムを初開催させていただきます。講演・ディスカッションを通じて、患者・家族の皆さまの声・ニーズにも耳を傾けながら、希少・難治性疾患等の研究から創薬・医療機器等の社会実装に結び付けていく産学官連携活動を加速させていくことを目指していきます。

13:00-14:05 講演 ※講演タイトルはいずれも仮のものです。

RDD Japan 事務局 西村 由希子

RDD(Rare Disease Day)とは

聖マリアナ医科大学 主任教授 山野 嘉久

これからの難病医療と産学連携

全国HAM患者会アトムの会 代表 石母田 衆

患者会からのメッセージ

14:10-15:00 パネルディスカッション

ファシリテーター medU-net運営委員 小泉 周

パネリスト 聖マリアナ医科大学 山野 嘉久

東京都医学総合研究所 長壁 健

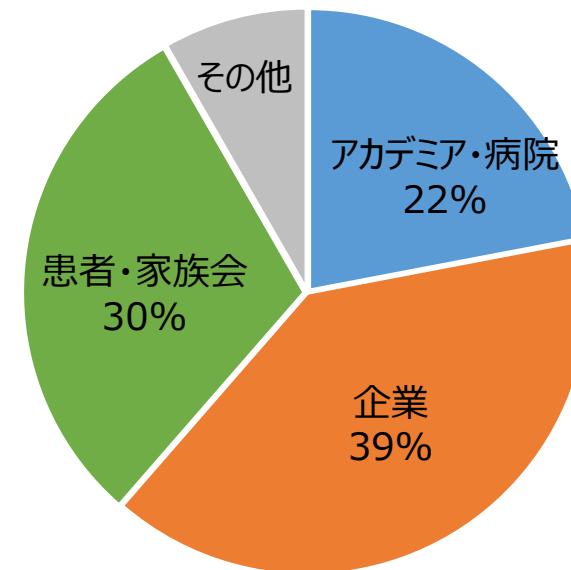
JCRファーマ株式会社 中島 孝典

RDD Japan 事務局 西村 由希子

(敬称略)



参加申込：109名



希少疾患・難病と産学官患連携とが当初はなかなか結び付きませんでした。まさにCD・URAが主体となって「つなげていく」ものと認識いたしました。



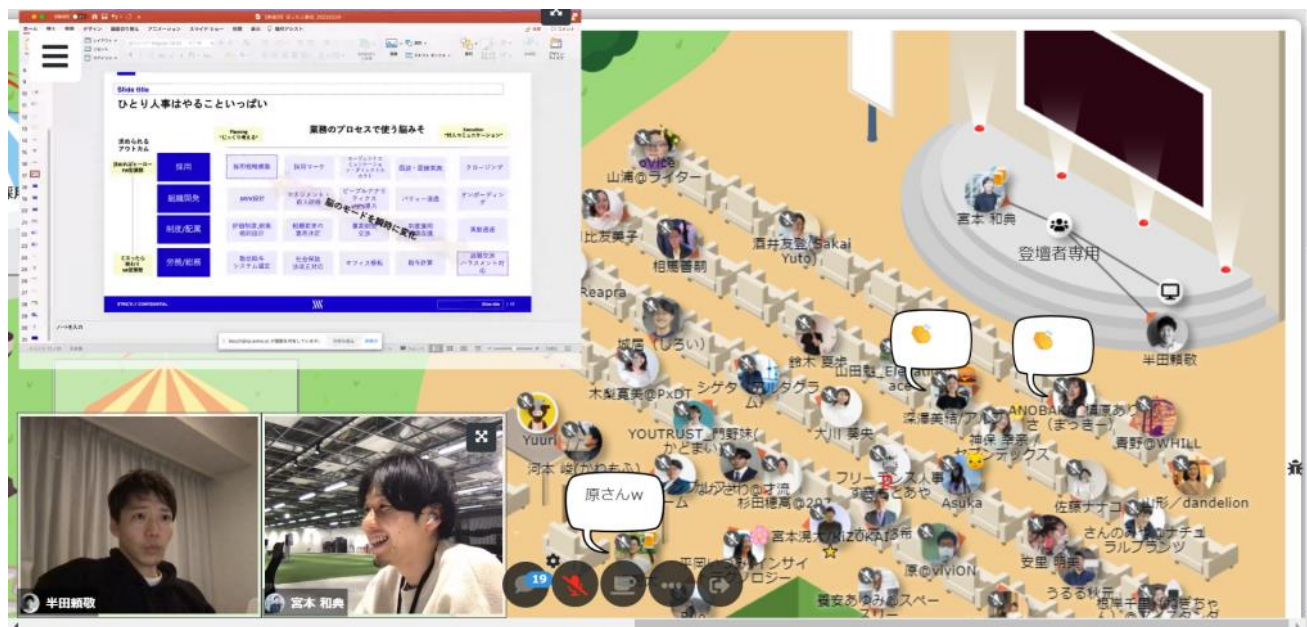
希少疾患・難治性疾患の克服に向けて、産学官患の連携がとても大切であることを強く感じました。

oVice (オヴィス)

定期交流会（情報交換リレー）等での積極活用
medU-net法人会員へ関連イベントでの利用開放（特典化）

【利点】

リアルでの交流会のように、個々に立ち話を出来ること
セミナー後に声掛けして個別に話すこと



<https://ovice.in/ja/usecase-hr/>